

平成 27 年度の資金運用結果について

平成 27 年度は、世界経済が中国株式市場の混乱、米国政策金利の利上げ、新興国の政情不安、原油安などで下振れ懸念に揺れる中、年内の日本経済は緩やかな成長を維持しました。年明け後、株価の下落や円高が進み、日銀によるマイナス金利政策が導入され、低金利が一層進みました。

本学では、平成 27 年度資金運用方針に基づき資金運用に臨みましたが、上記の状況の下、当初想定していたポートフォリオの構築はできませんでした。結果として、リターンについては、約 8.5 億円（約 2.7%）となりました。

以下に平成 27 年度の資産クラスごとの運用結果について簡単にご報告いたします。

1 国内債券（期末残高：約 217 億円）

国内債券については、将来の金利上昇局面を考慮しつつ、国債・政府保証債は 10 年ラダー、地方債、財投機関債、事業債は 5 年ラダーのポートフォリオを構築することを予定しておりました。しかし、低金利状態が継続し、一部を除き長期債の購入を控えたため、想定したポートフォリオの構築はできませんでした。その結果、この資産クラスの運用益は、約 2 億円（利回り約 0.9%）となりました。

平成 28 年度は、将来の金利上昇リスクに配慮して、限定した運用を行います。

＜購入債券＞ 国内債 16 銘柄、約 67 億円購入

注1 ラダー：各年限が均等な割合になるようポートフォリオを構築する方法

2 外国債券（期末残高：約 45 億円）

外国債券については、110 円～120 円程度の円安状況で、外国債券購入にかかる基準為替レートを上回ったため購入は難しい状況でしたが、外国債券の満期償還に伴いクーポン収入の低下が予想されるため、償還金額の範囲内での外債購入を行いました。この資産クラスの運用益は、約 6 億円（利回り約 15.2%）となりました。

平成 28 年度も為替動向に注目し、引き続き購入にかかる為替基準や適格基準を遵守した運用を行います。

＜購入債券＞ 外貨建外国債 7 銘柄、約 17.3 億円購入

3 国内株式（期末残高：約 5 億円）

国内株式についての運用益は約 1 千 5 百万円（利回り約 3.3%）となりました。

平成 28 年度も安全性に配慮しつつ、運用基準に従った運用を行います。

4 その他（期末残高：約 54 億円）

その他（仕組債）については、昨年の残高減少に続き、円安・金利低下とともに仕組債のクーポンが上昇する傾向にあります。その結果、この資産クラスの運用益は、約 2 千 8 百万円（利回り約 0.7%）となりました。

以 上